

# 初年次教育の中退防止効果

—— いわき明星大学における取り組み ——

和足 憲明・名取 洋典

## 1. はじめに

本稿は、初年次教育の中退防止効果を検証するものである。一般的に、初年次教育の目的として、大学への円滑な「移行」を通じて学生の定着を図り、中退率を低下させることが挙げられる。日本において初年次教育が普及したのも、初年次教育を通じて学生が大学に適応することが容易となる結果、中退率が減少し卒業率が上昇するという理由が大きい。そこで、本稿は「初年次教育は中退防止の効果を持っているか」という問いを提起する。

初年次教育の効果として、国際的には、中退率の抑制と学業継続率（＝リテンション率：中退しないで2年生まで当該大学にとどまって学業継続する比率）の向上が挙げられる。しかし、初年次教育と中退率の抑制との関係について、先行研究では次のように指摘されている。日本において、初年次教育の中退防止効果はまだ検証されていない。また、日本では初年次教育を必修科目として導入しているケースが大部分であるため、初年次教育の履修者と非履修者の比較から効果を分析することも行えない。そのため、分析方法として、同一大学における経年比較が提案されている<sup>1</sup>。実際に、アメリカなどでは、初年次教育の効果を測定するために、学業継続率を用いて、過去と比べて当該大学の教育プログラムがどのように改善されたかを時系列的に分析することが重視されてきている<sup>2</sup>。

以上の検討から、同一大学における経年比較を通じて、初年次教育の中退防止効果を検証することが課題であるということがわかる。そこで、本稿は、いわき明星大学を事例として初年次教育と中退率の推移に関して経年比較を行い、初年次教育の中退防止効果を検証することとする。本稿の仮説は、「初年次教育を充実させれば、学生の大学適応が容易となる結果、中退率が減少する」というものである。本稿は、同一大学の経年比較を通じて、以上の仮説を検証するものである。

## 2. 初年次教育の定義と効果

### 2.1 初年次教育の定義

大学教育のユニバーサル化（普遍化）に伴い、「高等学校から大学への移行は、段々と『問題』をはらむ状況となっている。大学は従来のように新入生自身の個別の適応努力に任せる放任的な姿勢を改め」<sup>3</sup>、「高等学校教育から大学教育への円滑な移行を促し、大学（学士課程）教育を通

じて学生を意図的・総合的に支援する」<sup>4</sup> 必要があり、「初年次教育」はその基盤として重要である。

初年次教育は、「高校（と他大学）からの円滑な移行を図り、学習および人格的な成長に向けて大学での学問的・社会的な諸経験を“成功”させるべく、主に大学新入生を対象に総合的につくられた教育プログラム」<sup>5</sup> と定義される。その中心的要素は、「（大学を知らない）1 年次生を、組織的に（全学もしくは学部レベルで）大学生活と大学での学習に「円滑に移行」させ、『成功』に水路づける」<sup>6</sup> ことにある。

## 2.2 初年次教育の歴史：アメリカと日本

アメリカでは日本に先駆けて、初年次教育が普及してきた。「高等教育のユニバーサル段階に入った 1970 年代後半から、中退率の抑制や卒業率の向上には、一番中退の確率が高い新入生に対する支援が有効である」<sup>7</sup> と認識されるようになった。さらに、アメリカの大学では 1980 年代以降、学業継続率が急激に低下した。こうした状況下で 1990 年代以降、多くの公立大学は財政配分を受けるため「教育改善」の指標である学業継続率の向上に取り組むことになった。その際、初年次教育は、高校から大学への移行を円滑化するうえで効果的であり、学業継続率を高く維持させるという理由から、学生を安定して確保し財政を安定させたい大学は初年次教育を充実させるようになった<sup>8</sup>。

一方、日本の初年次教育は、この 10 年間という短期間で急速に普及し、アメリカの普及率を上回るようになった。最大の要因は日本の大学の入学定員制というシステムである。入学定員の充足は学納金収入に直結する。私立大学の収入の 7 割以上が学納金収入である。また、私立大学は補助金をもらうためにも定員充足率が重要な指標となる<sup>9</sup>。このように、大学、とくに私立大学にとって、定員の充足は学納金収入と補助金収入という二重の意味で重要である<sup>10</sup>。こうして、入学時点の定員充足だけでなく収容定員の充足のため退学者対策が重視されるようになった<sup>11</sup>。そのため、中退率を抑制し学業継続率を向上させるという初年次教育への期待が高まりやすかったのである<sup>12</sup>。

## 2.3 初年次教育の中退防止効果

以上のように、日本では急速に初年次教育が普及してきた。その背景には、「大学進学率の上昇による高等教育のユニバーサル化と 18 歳人口の減少による事実上の『大学全入時代』の到来」<sup>13</sup> があった。すなわち、「高等教育と大学教育の問題は、大学入試という『選抜』の問題だけにとどまらず、教育上の『接続』の問題へと変化した」<sup>14</sup> ということである。

そのため、大学が初年次教育に資源を集中投入することは教育上のみならず大学経営上も合理的選択となる。なぜなら、初年次教育を通じて学生は学問的にも社会的にも大学に適應することが容易となる結果、中退率が減少し卒業率が上昇するからである<sup>15</sup>。実際に、初年次教育は、早期中退防止と当該大学への適應を通じて、中退率の低下と学業継続率の向上をもたらすことが指摘されている<sup>16</sup>。

たとえば、明星大学では、初年次教育を導入した結果、「一度でも離籍を考えたことがある」と答えた学生の割合が 1 割減少している<sup>17</sup>。また、嘉悦大学では、初年次教育の改革をはじめと

した大学改革の結果、2009年度春学期の中退者がゼロとなっている<sup>18</sup>。

### 3. いわき明星大学における初年次教育

以下では、いわき明星大学人文学部・教養学部における初年次教育の展開を検討する。

#### 3.1 初年次教育の類型化

初年次教育といってもその中身は様々であるため、実際に各大学の初年次教育を検討する前に、初年次教育を類型化する作業が必要であろう。

本稿は、初年次教育の類型化として、①量と②内容という2つの軸を提起する（図1参照）。第1に、量とはコマ数のことである。具体的には、半期15コマ、通年30コマ、通年60コマなどのように分類する。第2に、内容とは扱う領域のことである。具体的には、「初年次教育の8領域」のうちカバーしている範囲によって分類する。初年次教育の8領域とは、①スタディ・スキル（レポートの書き方、図書館の利用法、ディスカッションの技法、プレゼンテーション）、②スチューデント・スキル（一般常識や態度の涵養、時間管理や学習習慣、健康の維持）、③オリエンテーションやガイダンス、④専門教育への導入（専門教育の基礎的知識・技能の教育）、⑤教養ゼミや総合演習など学び全般への導入を目的とするもの、⑥情報リテラシー（コンピューターリテラシー、ネット利用）、⑦自校教育（自大学の歴史や沿革、社会的役割）、⑧キャリア・デザイン（将来の職業生活や進路選択への動機づけ）という8つの領域のことである<sup>19</sup>。

上記の類型化に関しては、実際に次のような指摘がなされている。「一般的な傾向として、選抜度が高く、学生の目的意識が比較的明確で、学力面での問題の少ない大学では、初年次教育の内容の“量（単位数）”や“種類（プログラム内容）”は少なく、選択科目扱いが多い。逆に、多様な学生の質が深刻な大学ほど、量が多く、範囲も広く、必修科目が多いといった傾向がある」<sup>20</sup>という。

このように、初年次教育を①量と②内容によって類型化することは、妥当であると考えられる。そこで、本稿は以上の類型化に基づき、いわき明星大学人文学部・教養学部における初年次教育を分析していくこととする。

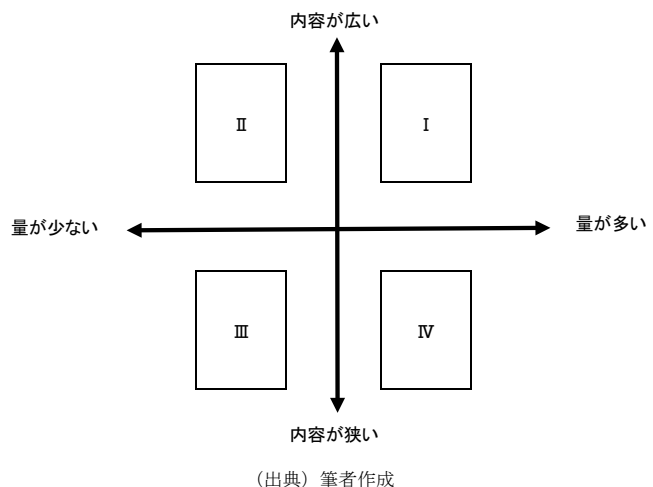


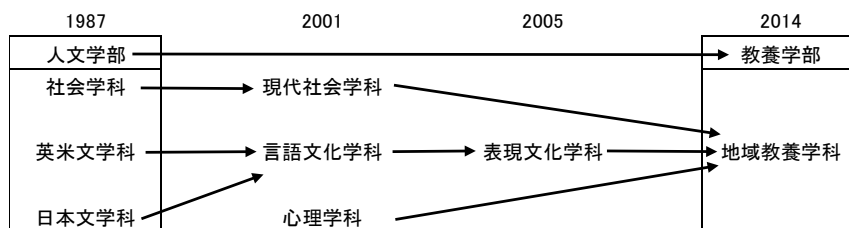
図1 初年次教育の類型化

## 3.2 いわき明星大学における学部・学科の変遷

### (1) 学部・学科の構成

いわき明星大学人文学部は、社会学科・英米文学科・日本文学科の3学科体制で、1987年（昭和62年）度の大学設置とともに開設された。その後、2001年（平成13年）度には心理学科が開設され、現代社会学科・言語文化学科・心理学科の3学科体制となった。さらに、2005年（平成17年）度には言語文化学科は表現文化学科となり、2014年（平成26年）度までの約10年間、現代社会学科・表現文化学科・心理学科の3学科体制が続くことになる。しかし、2015年（平成27年）度に入文学部は教養学部へ改組されるとともに、新たに地域教養学科が設置され、現在に至っている（図2参照）。

人文学部では各学科が独自に初年次教育を実施していた。しかし、学部改組を契機として、初年次教育の内容を「フレッシュャーズセミナー1・2」という形で一新した<sup>21</sup>。「その目的は、高校から大学への円滑な移行を図ることによって、早期の退学を防ぐことにある」<sup>22</sup>。



（出典）いわき明星大学創立30周年事業グループ2017：49頁より筆者作成。

図2 いわき明星大学における学部・学科編成の変遷

### (2) 分析期間の設定と分析事例の選択

以下では、2012年度から2016年度までを分析期間とし、人文学部現代社会学科・表現文化学科・心理学科の3学科と教養学部地域教養学科を分析事例として、初年次教育と中退率の関係を分析する。

まず、分析期間の設定理由は、次の2つである。第1に、東日本大震災による影響をコントロールするため、東日本大震災の翌年度である2012年度以降として設定する。第2に、データを入手可能であった2016年度までとして設定する。ただし、いわき明星大学人文学部・教養学部における初年次教育の沿革を明確にするため、表現文化学科が設置された2005年度から2011年度の期間についても言及する。

次に、分析事例の選択理由は、同一大学の同一学部という条件を統制したうえで、学科間の違いの検討および改組前後の通時的検討を通じて、初年次教育の中退防止効果を厳密に検証することができるからである。

## 3.3 人文学部・教養学部における初年次教育

以下、人文学部・教養学部における初年次教育を、①量と②内容を中心に検討していく。なお、

内容に関して、たとえば、2/8とは「初年次教育の8領域」のうち2つをカバーしているという意味であり、(①、④)とは「初年次教育の8領域」のうち①スタディ・スキルと④専門教育への導入をカバーしているという意味である。

#### (1) 現代社会学科の初年次教育

##### ① 2005～2011年度

- ・量：前期のみ15コマ「社会学基礎演習」
- ・内容：2/8（①、④）
- ・シラバス：担当者ごとのシラバス
- ・必修・選択：必修科目

##### ② 2012～2014年度

- ・量：前期15コマ・後期15コマ「社会学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」
- ・内容：4/8（①、③、④、⑤）
- ・シラバス：共通シラバス
- ・必修・選択：必修科目

#### (2) 表現文化学科の初年次教育

##### ① 2005～2007年度

- ・量：前期15コマ・後期15コマ「表現文化基礎演習ⅠA・ⅡB」
- ・内容：2/8（①、④）
- ・シラバス：共通シラバス
- ・必修・選択：必修科目

##### ② 2008～2009年度

- ・量：前期15コマ・後期15コマ「表現文化基礎演習ⅠA・ⅡB」
- ・内容：2/8（①、④）
- ・シラバス：担当者ごとのシラバス
- ・必修・選択：必修科目

##### ③ 2010～2014年度

- ・量：前期15コマ・後期15コマ「表現文化基礎演習ⅠA・ⅡB」
- ・内容：4/8（①、③、④、⑤）
- ・シラバス：共通シラバス
- ・必修・選択：必修科目

### (3) 心理学科の初年次教育

#### ① 2005 ～ 2009 年度

- ・ 初年次教育なし
- ・ 導入科目のみ

#### ② 2010 ～ 2014 年度

- ・ 量：前期のみ15コマ「心理学科基礎演習」
- ・ 内容：4 / 8 (①、③、④、⑤)
- ・ シラバス：共通シラバス
- ・ 必修・選択：必修科目

### (4) 教養学部 of 初年次教育 (2015 年度以降)

- ・ 量：前期30コマ・後期30コマ「フレッシュャーズセミナー 1・2」
- ・ 内容：8 / 8 (①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧)
- ・ シラバス：共通シラバス
- ・ 必修・選択：必修科目

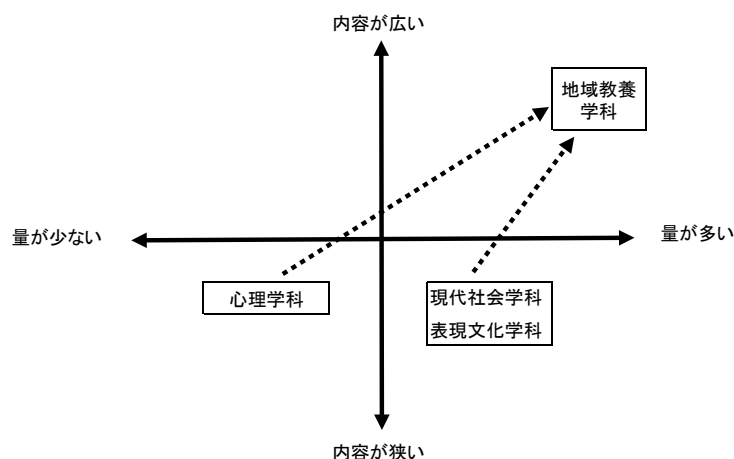
なお、科目担当者によれば、フレッシュャーズセミナーの特色は、①少人数制クラスでの実施（1クラス22～23名）、②1クラス教員3名、スチューデント・アシスタント1名の配置、③チューター面談を全学生に実施、④年間60コマの実施、⑤原則としてアクティブ・ラーニング形式での実施、⑥共通の教本と教材、という6点である<sup>23</sup>。

表1 いわき明星大学人文学部・教養学部における初年次教育

	人文学部(2012～2014年度)			教養学部(2015年度～)
	現代社会学科	表現文化学科	心理学科	地域教養学科
<b>量</b>	前期15コマ・後期15コマ (年30)	前期15コマ・後期15コマ (年30)	前期15コマのみ (年15)	前期30コマ・後期30コマ (年60)
<b>内容</b>	4/8(①、③、④、⑤)	4/8(①、③、④、⑤)	4/8(①、③、④、⑤)	8/8(①、②、③、④、⑤、 ⑥、⑦、⑧)
<b>シラバス</b>	共通	共通	共通	共通
<b>必修・選択</b>	必修	必修	必修	必修

(出典) いわき明星大学シラバス各年度版より筆者作成。

いわき明星大学人文学部・教養学部における初年次教育をまとめると、次のようになる（表1、図3参照）。人文学部における初年次教育は、①量的には前期15コマあるいは通年30コマであり、②内容的には「初年次教育の8領域」のうち4つをカバーしていた。教養学部における初年次教育は、①量的には通年60コマであり、②内容的には「初年次教育の8領域」のうち8つすべてをカバーしていた。以上のように、人文学部における初年次教育に比べて、教養学部における初年次教育は①量と②内容の両方の点で大幅な改善が図られている。



（出典）筆者作成

図3 いわき明星大学における初年次教育の類型化

#### 4. 中退率の推移

いわき明星大学人文学部の中退率は、全国平均と比べて高かった。実際、2012年度の大学中退率の全国平均が2.65%であるのに対して、同年度のいわき明星大学人文学部全体の中退率は5.0%である<sup>24</sup>。しかし、2016年度のいわき明星大学教養学部全体の中退率は1.5%にまで低下している。とはいえ、これらは学部全体の中退率データであるため、本稿の問題関心である初年次教育の効果を検証するには、1年生の中退率に焦点を当てて分析する必要がある。

そこで、いわき明星大学人文学部・教養学部1年生の中退率を検討することにしよう（表2参照）。人文学部1年生の中退率は、3学科とも平均4～5%である。一方、教養学部1年生の中退率は、平均1.0%であり、人文学部時代と比べると低下している。このように、人文学部1年生の中退率と教養学部1年生の中退率には大きな差があり、人文学部時代と比べ教養学部の1年生の中退率が大幅に低下している。初年次教育を一新し充実させた結果、中退率が減少したと考えられる。

表2 いわき明星大学人文学部・教養学部における中退率の推移

	人文学部									教養学部	
	現代社会学科			表現文化学科			心理学科			地域教養学科	
年度	2012	2013	2014	2012	2013	2014	2012	2013	2014	2015	2016
入学者数	36	36	25	39	44	31	64	52	55	89	99
退学者数	3	1	1	3	1	1	3	4	1	0	2
中退率	8.3%	2.8%	4.0%	7.7%	2.3%	3.2%	4.7%	7.7%	1.8%	0.0%	2.0%
平均	5.0%			4.4%			4.7%			1.0%	

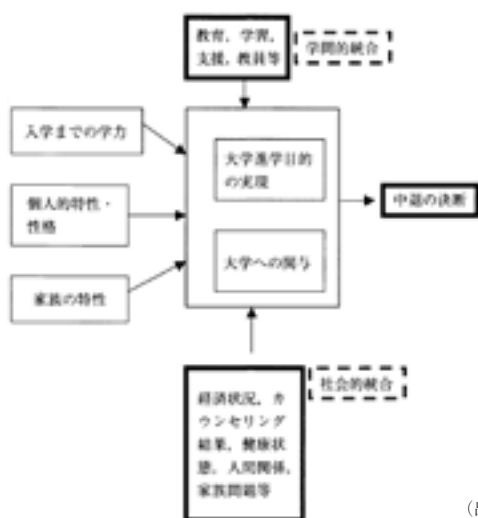
（出典）いわき明星大学教務課データより筆者作成。



## 5. 考察

本稿は、いわき明星大学人文学部・教養学部における初年次教育を事例として、1年生の中退率の推移を検討し、初年次教育の中退防止効果を検証するものであった。まず、初年次教育を①量と②内容という2つの軸から類型化した。類型化に基づき初年次教育を分析すると、人文学部と比べて、教養学部における初年次教育は、①量と②内容の両方の点で大幅な改善が図られているということがわかった。次に、人文学部・教養学部1年生の中退率を検討した。人文学部時代と比べ教養学部の1年生の中退率が大幅に低下しており、初年次教育を一新し内容を充実させた結果、中退率が減少したと考えられる。以上の分析結果から、初年次教育には中退防止効果があるといえるだろう。

とはいえ、本稿には次のような限界がある。第1に、本稿は単一大学の事例分析に限られている。他の複数大学の事例を分析する必要があるだろう。第2に、本稿はデータ上の制約から分析期間が限定されている。分析期間を延長すれば、異なる結果となる可能性はある。第3に、「初年次教育の充実→中退防止」という因果関係の中身がブラックボックスとなっている。この点で Tinto の中退モデルが参考となる。このモデルによれば、大学生が中退を決定する要因は学生が大学に「学問的」あるいは「社会的」に「統合」されていないことにあるという<sup>25</sup>（図4参照）。この Tinto の中退モデルを初年次教育と中退防止の因果関係に適用すれば、次のようになる。初年次教育を①量的にも②内容的にも充実させることを通じて、学生の大学への「学問的統合」と「社会的統合」を促し、その結果、大学生の中退が減少するという因果関係である。すなわち、「初年次教育の充実→学生の『学問的統合』と『社会的統合』→中退防止」という図式である。しかし、Tinto の中退モデルを応用したこの図式でも、初年次教育の充実と中退率の減少に関する因果関係の中身は十分に解明されているとはいえない。今後の検討課題としたい。



（出典）川嶋 2006：図1－1。

図4 Tinto の中退モデル



## 参考文献

- 荒井克弘（2011）「高大接続の日本的構造」日本高等教育学会編『高大接続の現在』玉川大学出版部。
- いわき明星大学創立30周年事業グループ編（2017）『いわき明星大学創立30周年記念誌 光跡』いわき明星大学。
- 川島啓二（2008）「初年次教育の展開とGP事業」『大学と学生』2008年5月号。
- 川嶋太津夫（2006）「初年次教育の意味と意義」濱名篤・川嶋太津夫編著『初年次教育—歴史・理論・実践と世界の動向』丸善株式会社。
- 川嶋太津夫（2013）「高大接続と初年次教育」初年次教育学会編『初年次教育の現状と未来』世界思想社。
- 佐藤拓ほか（2016）「いわき明星大学教養学部における初年次教育の実践と考察—1年目の取り組み内容について」『いわき明星大学研究紀要 人文学・社会科学・情報学篇』第1号。
- 佐藤拓・初見康行・名取洋典（2018）「新入生の夏期休暇期間前後の在学意思の変動に関する研究—いわき明星大学教養学部2015-2016年度入学生のデータを用いた実証研究—」『いわき明星大学研究紀要 人文学・社会科学・情報学篇』第3号。
- 杉田一真（2010）「初年次教育をテコに大学改革を推進：嘉悦大学（経営経済学部）」河合塾編著『初年次教育でなぜ学生が成長するのか—全国大学調査からみえてきたこと—』東信堂。
- 濱名篤（2006）「日本における初年次教育の可能性と課題」濱名篤・川嶋太津夫編著『初年次教育—歴史・理論・実践と世界の動向』丸善株式会社。
- 濱名篤（2007）「日本における初年次教育の位置づけと効果」『カレッジマネジメント』145号。
- 濱名篤（2013）「初年次教育の国際的動向—内容・方法と評価」初年次教育学会編『初年次教育の現状と未来』世界思想社。
- ベネッセ教育総合研究所（2013）「学ぶ意欲を引き出す教育改革事例」『VIEW21 大学版 2013特別号 vol.4』ベネッセコーポレーション。
- 文部科学省（2014）「学生の中途退学や休学等の状況について」（2014年9月25日）。
- 山田礼子（2005）『一年次（導入）教育の日米比較』東信堂。
- 山田礼子（2013）「日本における初年次教育の動向—過去、現在そして未来に向けて」初年次教育学会編『初年次教育の現状と未来』世界思想社。
- Tinto, Vincent. (1975) "Dropout from Higher Education: A Theoretical Synthesis of Recent Research", *Review of Educational Research*, Vol.45, No. 1.

## 参考

### 参考① 現代社会学科「社会学基礎演習Ⅰ」シラバス（2012年度）

No.	項 目	到 達 目 標
第1回	オリエンテーション	この演習の進め方、評価方法、参考書、目的等を明確にできる。自己紹介を通して各メンバーの相互理解を深めることができる。
第2回	大学における学びについて	授業時間、社会科の学習と社会学との違い、ノートの取り方、等々大学において学ぶための必須事項の理解を深め、実践できる。時間割を作ることができる。
第3回	学びの技法①：自分自身を多面的に理解する	自分自身の理解を深めることはすべてのことの土台であることを学び、さらに一面的にではなく多面的に理解することの具体的方法を見つけ出せる。
第4回	学びの技法②：他者に耳を傾ける	単に“聞く” (hear) だけではなく、“聴く” (listen) ができるよう工夫し、他者理解が深められる。
第5回	学びの技法③：コミュニケーションを通して情報を共有する	自他の相互交流を深め、情報を共有することで、幅広く学ぶことができる。
第6回	大学の施設利用について：大学のどこに何がありどのように活用できるか	図書館、体育館、AV教室、地域交流館等、大学施設の位置を知り、活用方法を確認できる。
第7回	読む技法①：新聞を読む	新聞を読み、関心のある記事を切り抜き、他のメンバーに要点を伝え、適確に他者の意見を聴けるよう工夫することができる。
第8回	読む技法②：新書を読む	大学の学習における読書の意義を整理し、具体的に新書を読み、他のメンバーにその要点を伝え、適確に意見を聴けるような仕組みを考案できる。
第9回	授業理解①：授業の形式、質問の仕方	授業形式の種類を理解し、何をどのように学ぶか、自分なりに整理できる。その際、特に何をどのように学ぶか組み立てられることができる。
第10回	授業理解②：ノートの取り方	様々なノートの取り方を参照し、自分自身に一番適した方法を見つけ出し、さらに工夫を加えることができる。
第11回	フィールドワーク：大学から出て地域で学ぶこと	大学以外の場所でのように学ぶか、体験的に理解し、要点をまとめ、これからの学習にどのように役立てるかプランを練ることができる。
第12回	書く技法①：メモの取り方、Eメールにおけるルール	授業や他の場所で学んだことをどのようにメモするか工夫し、さらに自分で学んだことを他者にいかに伝えるか、例えばEメールで試してみることができる。
第13回	書く技法②：記録の取り方、レジュメの作り方	自分が学んだことをいかに整理し、まとめ、記録に残していくか、自分なりの方法を発表し合い、よりよい方法を見つけることができる。
第14回	書く技法③：レポート・論文の書き方	授業の課題となるレポートや論文の書き方について実践的に学び、自らもこの演習のレポートが書くことができる。
第15回	自分への手紙	これからの大学生活、人生設計に関して、自分に向かい合い、自分自身に向けて手紙を書き、封印して提出する。卒業時に各自開封、評価し合うことができる。
試 験		

参考② 現代社会学科「社会学基礎演習Ⅱ」シラバス（2012年度）

No.	項 目	到 達 目 標
第1回	オリエンテーション、学問と好奇心	半期の予定、授業の進め方、評価の仕方、参考書の提示等の説明を受け、各自の問題意識を鮮明にする。学問と知的好奇心の関係について説明できる。
第2回	「学ぶ」ことの主体①	「学ぶ」のは、他ならぬこの私であることをはっきりと自覚し、積極的にこの時間を過ごせるように計画できる。
第3回	「学ぶ」ことの主体②	「学ぶ」ことの意義を明確にし、特に社会学的視点を身につけるための必要条件を提示できる。
第4回	学問の対象①	自分が学ぼうとする学問の対象は何かということを明確にし、その中でも特に関心のあることの焦点を絞ることができる。
第5回	学問の対象②	特に社会現象や、社会問題にはどのようなことがあるのか、視野を広げて把握し、自分の関心とどのような関係にあるのか説明できる。
第6回	学問の方法①	学問における理論の意義を理解し、その理論を学び、適用できるようにするためには、どのような文献にあたればよいかわかり明確にし、リストアップすることができる。
第7回	学問の方法②	フィールドワークや社会調査の方法の輪郭を理解し、実際に大学外に足を運び、関心のある施設や機関を訪れ、資料等を収集し、一連のことを記録することができる。
第8回	「遊ぶ」ことと学問	人間は「遊ぶ」ことを通して多くのことを学んでいるという実例を探し当て、自分の学習スタイルの中に組み込められる。
第9回	「生きる」ことと「学ぶ」こと①	自分自身が生活者として日々を生きていく中で、学んでいることの実例をリストアップし、他の学生にそれを提示し、多面的に検討できる。
第10回	「生きる」ことと「学ぶ」こと②	他者とともに生きることの必要性を明確にし、人間同士の“絆”や“つながり”の功罪を考察し、自分の目指す学問との関連性を説明できる。
第11回	「人間と社会」に関する文献購読①	「人間と社会」に関する基本文献を読み、自分自身の問題意識を高め、これからの学習に手がかりをつかむことができる。
第12回	「人間と社会」に関する文献購読②	「人間と社会」に関する基本文献を読み、他のメンバーとの議論を通し、新しく得ることのできた視点を整理し説明できる。
第13回	「人間と社会」に関する文献購読③	「人間と社会」に関する基本文献を読み、自分の生活を理解するきっかけとし、これからの生活を設計するための展望を開ける。
第14回	「苦勞する」ことと「学ぶ」こと	「生きる」上で、また「学ぶ」上で、「苦勞する」ことは避けられず、しかもその苦勞を通して何を学ぶことができるのか、その可能性を具体的に考察できる。
第15回	振り返りとまとめ	社会学基礎演習で学んだことを振り返り、整理した上でまとめ、いかに実践に移せるか、実践的に展望できる。
試 験		

参考③ 表現文化学科「表現文化基礎演習ⅠA」シラバス（2012年度）

No.	項 目	到 達 目 標
第1回	イントロダクション	1年間の履修計画に基づき時間割を確認し、前期で学ぶ事項について説明できる。
第2回	大学での学び方入門	大学の授業の種類について、また大学で何をどう学ぶのかについて説明できる。
第3回	挨拶の仕方・自己紹介	挨拶の仕方の基本や意義をふまえ、自己紹介ができる。
第4回	講義の聞き方・ノートの取り方	授業理解のための聴く技術・学ぶ技術・整理する技術について説明できる。
第5回	図書館利用法	図書館ガイダンスを受け、図書館を有効に利用する方法を説明できる。
第6回	読む技法（1）	本の種類や本を読む技術を習得し、多様な種類の読み方を身に付ける。
第7回	読む技法（2）	メディアのあり方をふまえて、情報を読み解くことの必要性を説明できる。
第8回	読む技法（3）	文章の全体像を把握し、適切な要約を作ることができる。
第9回	日本語再入門（1）	日本語表記のルールを習得し、文章表現の基本を説明できる。
第10回	日本語再入門（2）	漢字・語彙・敬語・言葉の意味を習得し、文章表現の基本を説明できる。
第11回	日本語再入門（3）	修飾語の語順や助詞の正しい使い方を習得し、文章表現の基本を説明できる。
第12回	レポート作成法（1）	レポートの種類・構成・書式・マナーについて説明できる。
第13回	レポート作成法（2）	レポートを書く手順やルールを習得し、レポートの構成を説明できる。
第14回	レポート作成法（3）	文章表現を考えながらレポートを執筆する。また、前期のまとめと理解度を確認する。
第15回	話す技術と聞く技術	表現文化学科主催の講演会に参加し、話す力や表現力および聞く力や理解力を高めるにはどうしたらいいかを説明できる。
試 験		試験は実施しない。

参考④ 表現文化学科「表現文化基礎演習ⅡB」シラバス（2012年度）

No.	項 目	到 達 目 標
第1回	イントロダクション	前期の授業内容を復習し、後期の授業で扱う事項について説明できる。
第2回	通信文・手紙の書き方（1）	事務文書や手紙の種類・形式・マナーについて説明できる。
第3回	通信文・手紙の書き方（2）	事務文書や手紙のルールに従って実用文の書き方を身に付ける。
第4回	文章表現法（1）	語句法や文末表現の特徴をふまえ、明快で説得力のある文章の書き方を身に付ける。
第5回	文章表現法（2）	意図が相手に十分伝わるよう工夫し、明快で説得力のある文章の書き方を身に付ける。
第6回	文章表現法（3）	校正と添削の方法を習得し、明快で説得力のある文章の書き方を身に付ける。
第7回	文献・情報検索	資料・データの探し方や文献・情報の検索の仕方を習得し、それらを活用する方法を示すことができる。
第8回	ディスカッション（1）	ディスカッションやグループ討論の要領を習得し、その進め方や利点について説明できる。
第9回	ディスカッション（2）	ディスカッションやグループ討論をおこない、論理的で説得力をもつ議論のあり方を説明できる。
第10回	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションの種類・要領・役割について基礎知識を説明できる。
第11回	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーションに必要な資料やレジュメを作成し発表する。
第12回	レポート作成（1）	レポートのテーマを設定し、構成を考えアウトラインを組み立てる。
第13回	レポート作成（2）	これまで学習したスキルを用い、アウトラインにそってレポートを完成させる。
第14回	レポート発表（1）	レポートの内容をプレゼンテーション形式で発表するためのレジュメを作成する。
第15回	レポート発表（2）まとめ	レポートの内容を口頭発表する。また、後期のまとめと理解度を確認する。
試 験		試験は実施しない。

参考⑤ 心理学科「心理学科基礎演習」シラバス（2011 年度）

No.	項 目	到達 目 標
1	オリエンテーション	授業の位置づけと目標について理解する。教員の自己紹介や専門分野の紹介があるので、クラスやグループのメンバーも含め、なるべく早く覚えるようにする。所属するクラスで自己紹介を行える。
2	大学で学ぶとはどういうことか？	大学での学びについて、高校時代までとどのように異なるかについて理解する。理解した内容を適切にノートに記録できる。
3	心理学における研究テーマの設定と研究の展開	教員から具体的な研究内容の紹介や心理学の各分野についての紹介がある。心理学研究の具体像を知るとともに、それらを適切に記録しておく。
4	心理学科での学生生活	大学で活用できる様々な資源（キャリアサポートグループ、保健管理センター等）の紹介がある。上級生からは、心理学科での生活について体験報告がある。今後の学生生活について具体的なイメージを形成する。
5	調べる1	図書館の利用法について学ぶ。図書館を適切に利用できるようになる。
6	調べる2	情報センター等の利用法について学ぶ。情報処理演習室等を適切に使用できるようになる。
7	調べる3	心理学で今まで関心をもってきたこと、また、どのような点に関心をもったかについて、自分の調べたいテーマを設定する。それをグループ内で発表し、他のメンバーや教員からコメントをもらう。
8	調べる4	設定したテーマについて自主的な調査を行う。このときグループのメンバー同士で協力し合って構わない（調査チームの形成）。図書館等を利用するなど、自分たちで適切に調査を行うことができる。
9	考える1	調べた内容を持ち寄り、グループまたはクラスで検討する。調査の進捗状況について、適切に発表できる。また、他人の発表に対して、適切な質問やコメントができる。
10	考える2	前回の討論内容を参考に、問題を練り直し、新たな観点からの調査を行う。
11	まとめる1	最終報告に向けて、集めた資料を整理し、まとめの作業に入る。まとめ作業はレポート作成と発表準備である。発表は調査チーム単位で行っても構わないが、レポートは各自で作成する。
12	まとめる2	前回に引き続き、まとめの作業を行う。効果的なプレゼンテーション技法について教員からアドバイスをもらう。発表に向けての準備を進める。
13	発表と討論1	クラス単位で発表と討論を行う。わかりやすい適切なプレゼンテーション、有意義なディスカッションを行うことができる。
14	発表と討論2	前回に引き続き、クラスで発表と討論を行う。わかりやすい適切なプレゼンテーション、有意義なディスカッションを行うことができる。また、授業の最後にレポートを提出する。
15	学習成果の評価	各クラスで課題が与えられるので、各自それに基づいたレポート(800字程度)を作成して提出する。そのレポートに基づいて、論理的思考力や日本語能力がどの程度身についたかを評価する。
試験		試験は実施しない。

参考⑥ 地域教養学科「フレッシュャーズセミナー1・2」スケジュール（2015年度）

前期

【コミュニケーション育成】

講義数	実施時期	コマ数 カウント	学習タイプ	表題	内容	教材・テキスト
2日間で 実施予定	4月2日(木) 4月3日(金)	1コマ	基礎人間力 基礎学修力	<b>スタートアップ研修</b> 研修のコンセプトは「コミュニケーション」 多様なワークを通して大学の学習に触れ、新入生同士の仲を深める ※1日目は研修企業の内容を実施 ※2日目は教養学部教員主導で行う ※教養学部は2日目に校歌の練習等で一体感を高める ※教養学部は2日目に「自立と体験1」の第1回目を実施	1日目 研修会社 プログラム	
		2コマ				
		3コマ				
		4コマ				
		5コマ				
		6コマ				
					2日目 教養学部(教員主導) 自立と体験1(第1回)	

※基礎人間力 → 友人作り、ルール・マナー、食育、メンタルヘルスなど、「学生生活全般」を充実・促進させることを目的とした基礎教育  
 ※基礎学修力 → 日本語リテラシー、グループワーク、ロジカルシンキングなど、「学修生活全般」を充実・促進させることを目的とした基礎教育

【基礎学修力・人間力育成】、【自校教育】、【イベント企画】、【目標設定】

講義数	実施時期	コマ数 カウント	学習タイプ	表題	内容	教材・テキスト
第1回	4月7日（火）	7コマ	基礎人間力	新しい環境で他者と出会う	・共に学ぶ学生同士交流する ・いわき明星大学でやってみたいことを考える	自立と体験1（第2回）
		8コマ	基礎学修力	アセスメントテスト	・アセスメントテストの実施	アセスメントテスト
第2回	4月14日（火）	9コマ	基礎学修力	大学での学びを考える	・高校と大学の違いを理解する ・ノートやメモの取り方について学ぶ	自立と体験1（第3回）
		10コマ	基礎学修力	図書館利用法・情報収集法 日本語リテラシー「話す」能力の育成	・第1回：図書館ツアー ・ビブリオバトル①（話す能力の育成）	自立と体験1（第8回） 新書（ビブリオバトル）
第3回	4月21日（火）	11コマ	基礎学修力	聴いて相手を理解する（1）	・「聴くためのポイント、良い聴き方を学ぶ ・相手を理解するための質問の仕方を学ぶ	自立と体験1（第4回）
		12コマ	基礎学修力	図書館利用法・情報収集法 日本語リテラシー「話す」能力の育成	・第2回：図書館ツアー ・ビブリオバトル②（話す能力の育成）	自立と体験1（第8回） 新書（ビブリオバトル）
第4回	4月28日（火）	13コマ	基礎学修力	聴いて相手を理解する（2）	・お互いの意見を活かしながらまとめる体験をする ・情報をもとに、グループメンバーで協力して話し合う	自立と体験1（第5回）
		14コマ	基礎学修力	図書館利用法・情報収集法 日本語リテラシー「話す」能力の育成	・第3回：図書館ツアー ・ビブリオバトル③（話す能力の育成）	自立と体験1（第8回） 新書（ビブリオバトル）
第5回	5月12日（火）	15コマ	基礎学修力	いわき明星大学を知る（1）	・グループワークの目的・目標共有、班決め ・学長からの話、大学紹介DVDなど（合同授業）	自立と体験1 （第6・7・9回を包含）
		16コマ	基礎学修力	いわき明星大学を知る（2）	・学内フィールドワーク（1組・2組） ・先輩からの話、など（3組・4組）	自立と体験1 （第6・7・9回を包含）
第6回	5月19日（火）	17コマ	基礎学修力	いわき明星大学を知る（3）	・学内フィールドワーク（3組・4組） ・先輩からの話、など（1組・2組）	自立と体験1 （第6・7・9回を包含）
		18コマ	基礎学修力	いわき明星大学を知る（4）	・模造紙の作成 ・プレゼンの練習とクラス内発表	自立と体験1 （第6・7・9回を包含）
第7回	5月26日（火）	19コマ	基礎学修力	いわき明星大学を知る（5）	・各クラス混合で全体発表（1クラス4班） ・振り返りとフィードバック	自立と体験1 （第6・7・9回を包含）
		20コマ	基礎人間力	メンタルヘルスリテラシー	・大学生活の悩みとその対処について考える ※退学者対策	大学生活トラブルDVDなど
第8回	6月2日（火）			スタートアップ研修へ振り替え		
第9回	6月9日（火）	21コマ	基礎人間力	演習（1）	食育講座（1） ・100円朝食をとった後、学食業者担当者より講義	オリジナル教材
		22コマ	基礎人間力	演習（2）	食育講座（2） ・ダイエットに絡めた「食育」の講義	オリジナル教材
第10回	6月16日（火）	23コマ	基礎学修力	日本語リテラシー（1） 「読む」能力の育成	・新聞を知る・新聞を読む 「読む」能力の育成	オリジナル教材
		24コマ	基礎学修力	日本語リテラシー（2） 「調査・分析」能力の育成	・興味のある人物について、自分で調査し、まとめる ・新聞記事の作成	文献は学生が選択 オリジナル教材
第11回	6月23日（火）	25コマ	基礎学修力	日本語リテラシー（2） 「調査・分析」能力の育成	・レポート作成の際に必要な、引用の基礎を学ぶ ・ネットから情報を得ることの利点と問題点を理解する	オリジナル教材
		26コマ	基礎学修力	<力試し「聴く」話す能力の確認>	・1つのテーマについて、賛成・反対に分け、討論する ・班ごとに結論を出し、発表する	オリジナル教材
第12回	6月30日（火）			スタートアップ研修へ振り替え		
第13回	7月7日（火）					
		27コマ	基礎人間力	自分や相手の大切さを知る	・ハラスメントについて学ぶ	自立と体験1（第10回目）
第14回	7月14日（火）					
		28コマ	基礎人間力	ルールとマナーを考える	・社会やキャンパス内などのマナーを考える	自立と体験1（第11回目）
第15回	7月21日（火）	29コマ	基礎学修力	セルフグロースシート（1）	・前期の振り返り ・大学生活の目的再設定	自立と体験1 （第13・14・15回を包含）
		30コマ	基礎学修力	セルフグロースシート（2）	・夏休みの過ごし方 ・セルフグロースシートの作成、プレゼンテーション	自立と体験1 （第13・14・15回を包含）



参考⑥ 地域教養学科「フレッシュャーズセミナー1・2」スケジュール（2015年度）

後期

【基礎学修力・人間力育成】、【イベント企画・実行】

講義数	実施時期	コマ数 カウント	学習タイプ	表題	内容	教材・テキスト
第1回	9月15日（火）	31コマ	基礎人間力	全体ガイダンス アセスメントフィードバック	・前期振り返り、クラス再編成による自己紹介など ・アセスメント結果のFBと今後の目標設定	アセスメントテストの フィードバックシート
		32コマ	基礎人間力	演習（3）	「食育」に絡めた学食のメニュー企画（1） ・メニュー提案のためのプロジェクトチーム結成	オリジナル教材
第2回	9月29日（火）	33コマ	基礎人間力	演習（4）	「食育」に絡めた学食のメニュー企画（2） ・クラス代表決定コンペ	オリジナル教材
		34コマ	基礎学修力	日本語リテラシー（3） 「調査・分析」能力の育成	・夏季休業中にやってきた課題の提出と発表	文献は学生が選択 オリジナル教材
第3回	10月6日（火）	35コマ	基礎学修力	日本語リテラシー（4） 「調査・分析」能力の育成	・夏季休業中にやってきた課題の提出と発表	文献は学生が選択 オリジナル教材
		36コマ	基礎人間力	演習（5）	「食育」に絡めた学食のメニュー企画（3） ・シタックス担当者招いたコンペ	オリジナル教材
第4回	10月13日（火）	37コマ	基礎学修力	ロジカルシンキング（1）	・ロジカルシンキングとは？ ・テーマを決めてグループワーク①	オリジナルテキスト
		38コマ	基礎学修力	ロジカルシンキング（2）	「ドーナツ店の売上を2倍に増やすには？」 ・模造紙の作成、クラス内プレゼンテーション	オリジナルテキスト
第5回	10月20日（火）	39コマ	基礎学修力	ロジカルシンキング（3）	・テーマを決めてグループワーク③ 「いわき市の人口を5年後までに1万人増やすには？」	オリジナルテキスト
		40コマ	基礎学修力	ロジカルシンキング（4）	・模造紙の作成、クラス内プレゼンテーション	オリジナルテキスト
第6回	10月27日（火）	41コマ	基礎学修力	ロジカルシンキング（5）	・クラス内発表 ・振り返り・FB	オリジナルテキスト
		42コマ	基礎人間力	ロジカルシンキング（6） テーマ別演習オリエンテーション	全体発表（AV教室） ・ローテーション授業の目的・内容理解	オリジナルテキスト

【専門課程入門】、【キャリア教育】、【目標設定】

講義数	実施時期	コマ数 カウント	学習タイプ	表題	内容	教材・テキスト
第7回	11月10日（火）	43コマ	基礎学修力	メジャー・サブメジャー と関連した テーマ別演習（1）	テーマを決めてグループワーク ※4コマを1単元として3つの領域を学ぶ ※テーマをメジャー・サブメジャーと 関連したもの設定し、 専門課程への足掛かりとする ※課題理解→仮説→検証→発表のサイクル	地域と社会 「いわき市について学ぶ」  少子高齢化・福祉 サンシャインマラソン等
		44コマ				
第8回	11月17日（火）	45コマ	基礎学修力	メジャー・サブメジャー と関連した テーマ別演習（2）	テーマを決めてグループワーク ※4コマを1単元として3つの領域を学ぶ ※テーマをメジャー・サブメジャーと 関連したもの設定し、 専門課程への足掛かりとする ※課題理解→仮説→検証→発表のサイクル	国際コミュニケーション 「異文化交流とは」  異文化交流に 必要な考え方・方法等
		46コマ				
第9回	11月24日（火）	47コマ	基礎学修力	メジャー・サブメジャー と関連した テーマ別演習（3）	テーマを決めてグループワーク ※4コマを1単元として3つの領域を学ぶ ※テーマをメジャー・サブメジャーと 関連したもの設定し、 専門課程への足掛かりとする ※課題理解→仮説→検証→発表のサイクル ※各クラス1位の次週全体発表	心理と人間行動 「実験→分析→仮説生成」  アクションスリッパ 体験から実験立案・実施
		48コマ				
第10回	12月1日（火）	49コマ	基礎学修力	メジャー・サブメジャー と関連した テーマ別演習（3）	テーマを決めてグループワーク ※4コマを1単元として3つの領域を学ぶ ※テーマをメジャー・サブメジャーと 関連したもの設定し、 専門課程への足掛かりとする ※課題理解→仮説→検証→発表のサイクル ※各クラス1位の次週全体発表	地域と社会 「いわき市について考えよう」
		50コマ				
第11回	12月8日（火）	51コマ	基礎学修力	メジャー・サブメジャー と関連した テーマ別演習（3）	テーマを決めてグループワーク ※4コマを1単元として3つの領域を学ぶ ※テーマをメジャー・サブメジャーと 関連したもの設定し、 専門課程への足掛かりとする ※課題理解→仮説→検証→発表のサイクル ※各クラス1位の次週全体発表	心理と人間行動 「実験→分析→仮説生成」  アクションスリッパ 体験から実験立案・実施
		52コマ				
第12回	12月15日（火）	53コマ	基礎学修力	メジャー・サブメジャー と関連した テーマ別演習（3）	テーマを決めてグループワーク ※4コマを1単元として3つの領域を学ぶ ※テーマをメジャー・サブメジャーと 関連したもの設定し、 専門課程への足掛かりとする ※課題理解→仮説→検証→発表のサイクル ※各クラス1位の次週全体発表	心理と人間行動 「実験→分析→仮説生成」  アクションスリッパ 体験から実験立案・実施
		54コマ				
第13回	12月22日（火）	55コマ	基礎学修力	テーマ別演習「地域と社会」の発表	・全体発表（AV教室） ・テーマ別演習の振り返り	地域と社会 「いわき市について考えよう」
		56コマ	基礎学修力	「地域と社会」と関連した特別講演	「これからのいわき市を考える～大学生に求められる地域貢献」に関するゲスト講演と討論会	特別講演・学生との討論会
第14回	1月12日（火）	57コマ	基礎人間力	「仕事・働く」を考える	「仕事・働く」に関する映画を鑑賞して 自分にとっての「仕事・働くとは？」を考えてみる ※2年次キャリア教育への足掛かりとする	「仕事・働く」に 関連したDVD教材など
		58コマ	基礎人間力			
第15回	1月19日（火）	59コマ	基礎学修力	セルフグロースシート（3）	・1年の振り返り ・今後の意識的行動や学習のポイントを考える	前期作成した セルフグロースシート
		60コマ	基礎学修力	セルフグロースシート（4）	・セルフグロースシートの作成	前期作成した セルフグロースシート

注

- 1 濱名2007：6頁、濱名2013：61、63頁。
- 2 濱名2006：258頁。
- 3 川嶋2006：2頁。
- 4 川嶋2006：2頁。
- 5 川嶋2006：3頁。
- 6 濱名2006：247頁。
- 7 川嶋2013：51頁。
- 8 山田2005：72、132頁。
- 9 濱名2013：62頁。
- 10 濱名2013：62頁。
- 11 濱名2013：62－63頁。
- 12 濱名2013：63頁。
- 13 川嶋2013：45頁。
- 14 荒井2011。
- 15 川嶋2006：11頁。
- 16 濱名2007：6頁、濱名2013：59－60頁、佐藤ほか2016：3頁。
- 17 ベネッセ教育研究所2013：29頁。
- 18 杉田2010：151頁。
- 19 川島2008：26－27頁、山田2013：13頁。
- 20 濱名2007：8頁。
- 21 佐藤ほか2016：4頁。
- 22 佐藤・初見・名取2018：17頁。
- 23 佐藤ほか2016：5－7頁。
- 24 文部科学省2014、いわき明星大学教務課データ。
- 25 Tinto 1975、川嶋2006：5頁。

（わたり のりあき／行政学・地方自治）  
（なとり ひろのり／教育心理学）